

図表1 定点観測することを検討していいマーケットデーター覧(例示)	
〈内外長短金利〉	チェック
無担保コール	翌日物
TIBOR	3ヶ月
プライムレート	短期 長期
日本新券国債	10年
米短期金利	FFレート
米国債	TB 3ヶ月
英國債	10年
独連邦債	10年
(主要国為替相場)	
米ドル	
ユーロ	
カナダドル	
英ポンド	
スイスフラン	
デンマーククローネ	
ノルウェークローネ	
スエーデンクローネ	
豪ドル	
ニュージーランドドル	
香港ドル	
シンガポールドル	
サジアラビアリアル	
U.A.E. ディルハム	
タイバーツ	
インドルピー	
インドネシア100ルピア	
メキシコペソ	
フィリピンペソ	
南アフリカランド	
韓国100ウォン	
中国元中値	

\*これらのうち自分の業務、仕事、趣味に応じて定点観測しておいていいと思うデータ項目にチェック印を入れる

図表2 マーケットデーター覧	
〈各国株価指数等〉	チェック
日経平均225	
日経300	
白銀ジャスダック	
JASDAQ指数	
東証株価指数(規模別)	
大型株	
中型株	
小型株	
米国株	NYダウ30
S&P500	
NASDAQ	
イギリス株	FT100
ドイツ	DAX
フランス	CAC40
スイス	SMI
オランダ	AEX
ベルギー	BEL20
スペイン	スペイン
スウェーデン	スウェーデン
スコットランド	スコットランド
カナダ	カナダ
シンガポール	シンガポール
オーストラリア	オーストラリア
香港	香港
上海	上海
韓国	韓国総合
台湾	台湾
(主要商品等)	
国内金価格	1グラム=円
NY金価格	1トロイオンス
NY原油	
CRB	
東証REIT指数	

いいほど、ページの片隅に「天気、気温」などを書き入れたための欄があつたはずだ。懐かしく思いたいが、この記憶から推測するに、彼ら、彼女らの多くは「絵日記」「○○観察日記」などの課題が与えられているのだと思う。今でも変わらないのではないだろうか。

この類の宿題には必ずと言つていいほど、ページの片隅に「天気、気温」などを書き入れたための欄があつたはずだ。懐かしく思いたいが、この記憶から推測するに、彼ら、彼女らの多くは「絵日記」「○○観察日記」などの課題が与えられているのだと思う。今でも変わらないのではないだろうか。

私のとても古い記憶から推測するに、彼ら、彼女らの多くは「絵日記」「○○観察日記」などの課題が与えられているのだと思う。今でも変わらないのではないだろうか。

## 名

実ともに新年度である。であれば、新年度にふさわしいテーマがいい。

そこで私たちは「昨日に比べて3度気温が高いが、3度高ければこの程度暖かいと感じるものなか」「風速が7メートルといえば相当強い風だな」「ジメジメすると思つたらやつぱり湿度が70%を超えているよ」といったように、環境の定量的な変化と自分の感覚を無意識のうちに対照させることを覚えるのだと思う。

さて、話は変わるが、サービス業の基本は「相手の気持ちを理解する」ことである。言い換えれば「相手の気持ちになつて考えてみる」ことだ。むろん「金融業」は「金融サービス業」である。

そして、話は変わるが、サービス業の基本は「相手の気持ちを理解する」ことである。言い換えれば「相手の気持ちになつて考えてみる」ことだ。むろん「金融業」は「金融サービス業」である。

そして、投資信託を嘴矢として、金融機関の窓口を経由し

て変額金保険や国債、外貨預金など

の各種市場性商品を自らのバラ

ンシート中の「資産の部」→「流動性資産」に組み込む顧客が急増

している。

そこで、彼らは、命の次に大切な(?)資産が、市場性金融商品というかたちで、大海に漂う木の葉のごく、毎日のようにその価値をアップダウンさせているのを見守る以外はない。

彼らは、命の次に大切な(?)資産が、市場性金融商品といふかたちで、大海に漂う木の葉のごく、毎日のようにその価値をアップダウンさせているのを見守る以外はない。

そこで、それらの金融商品の収益性(資産価値)を直接規定するのが、諸々のマーケットであることは疑いようがない。

であれば、顧客は自分自身の資産に多大なる影響を与えずにはおかない各種マーケットのことは気外にない。

彼らは、命の次に大切な(?)資産が、市場性金融商品といふかたちで、大海に漂う木の葉のごく、毎日のようにその価値をアップダウンさせているのを見守る以外はない。

そこで、それらの金融商品の収益性(資産価値)を直接規定るのが、諸々のマーケットであることは疑いようがない。

であれば、顧客は自分自身の資産に多大なる影響を与えずにはおかない各種マーケットのことは気外にない。

彼らは、命の次に大切な(?)資産が、市場性金融商品といふかたちで、大海に漂う木の葉のごく、毎日のようにその価値をアップダウンさせているのを見守る以外はない。

そこで、それらの金融商品の収益性(資産価値)を直接規定のが、諸々のマーケットであることは疑いようがない。

であれば、顧客は自分自身の資産に多大なる影響を与えずにはおかない各種マーケットのことは気外にない。

彼らは、命の次に大切な(?)資産が、市場性金融商品といふかたちで、大海に漂う木の葉のごく、毎日のようにその価値をアップダウンさせているのを見守る以外はない。

</div